

## 平成21年度第4回 下山地域会議 会議録

【日時】平成21年7月16日(木) 19:00～21:00

【場所】下山交流館第11会議室

【出席者】委員 11名出席 4名欠席

事務局 加藤支所長 原田 西山 鶴田 加藤

【次第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1)分科会ごとの活動報告と地域予算提案事業について

(2)地域の合意形成方法の検討について

・ 区長・コミとの合同会議について

・ 地域住民からの意見聴取の仕方について

(3)わくわく事業の補助基準について

第2回合同地域会議の報告

時間がないため次回以降に

5 今後の予定

各分科会・料理コンテスト実行委員会・産地直売所連絡会

第5回地域会議

6 わくわく活動日程

プロジェクト『H』 ・ 花山自治区

7 その他

---

### 【内容】

1 あいさつ

(会長)みなさんこんばんは、合併した町村の地域会議の正副会長と事務局との会議が小原であり、同じ問題は合同で提案するという動きがある。また区長会と地域会議が力を合わせてやらなければいけないという雰囲気が出てきていると思った。

(支所長)今年度の地域予算提案事業についての審議をしていただくことになるので、よろしくお願ひします。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 協議事項

(1)分科会ごとの活動報告と地域予算提案事業について

(事務局)分科会ごとに発表をし、方向性を地域会議として合意をする。食による地域活性化事業

は、作品募集要項を広報とよた、支所だよりに掲載、各交流館に設置をし、作品を募集する段階。安心安全農作物講座は現在検討中で、8 / 15号の支所だよりに掲載するよう進めている。

(委員) 子育て支援環境づくり事業と子ども分科会の報告は、先日、子育て支援環境づくり連絡会を開催した。こども園の園長、父母会、社協、交流館の方々と、マップの検討と情報交換をした。自治区長・組長には公園が必要か、土地があるか、こども園の父母の方には検診、保健師の常駐などのアンケートをお願いし、現在集計中。集計の結果によって、整備をするなどの検討をする。

(委員) 農林業分科会で、農林業で高齢者の生きがいづくりと地域の活性化を目的に、地域内の直売所の代表者で意見交換会を開催した。地域住民が参加しやすい仕組みづくりと直売所間の物流、合同のイベントの開催など話し合いを直売所間で進めていく予定。産直のマップ作成を提案したところ、賛成で、地域の活性化になるように原稿など検討し、のぼりの要望も合わせて進めていく。

(委員) みりん分科会は、第2回も継続して料理コンテストを開催する予定、現在は実行委員会形式で行っている。住んでみりん計画の実施で、平成21年度人口減少・少子高齢化で過疎化について地域の意識付けを進めていく。基礎データの作成・提示は、10年前などと比較し今後どうなるかという予想を作成し、区長・組長を通し提示し、考えてもらう。21~22年度実施する地域に検討会、下山地域全体として連絡協議会を作り、共通認識を持ち効率的に事業を推進できるようにする。平成22年の地域予算提案事業として、基礎調査、ワークショップなど必要なことを今後検討し、地域の情報を整理し受け入れるための体制を作っていく予定。

(事務局) 過疎対策プロジェクトに支所職員も入り動き出している。空家・空地調査から入り、地域での受け入れは各地域に任されている。各地域に基礎データを提示していくうえで地域会議委員から組長会で説明することになるので、地域会議として共通の認識を持つために、話し合いをしたい。今回方向性を確認した後、事業計画案を作成し、9月の地域会議で確認。10月の地域会議で事業計画書決定。子ども分科会から。

(会長) 事業については賛成だが、マップを作った後、次は何かを考えているか。

(委員) アンケートと、自分達が考えていることとニーズが違うといけないので、結果で考える。

(委員) 地域に密着の意見を収集して、要望を挙げてもらい、地域がそれを作るための活動を起こしてもらおう方向で話をしようと思っている。

(委員) 既存の施設を把握すること。それをどう利用したらいいか。まどいの丘、小学校の跡地も。子どもが遊ぶのも大事だが、それを見ている親も、それにはどういう施設がいいのか、区長から要望をいただいて自治区の方からの要望として事業を取り上げてできないものかという話になっている。既存の施設を有効に利用するような方向を進めていく。

(事務局) マップづくりは既存の施設の活用、次年度の計画としては区長・組長から出てきたものと、お母さん達からのアンケートの集計により、年代によって必要な公園が違うので、自治区が必要なもの、既存で活用できるかできないかを判断して、計画として作成していく、この方向性は地域会議として、よかったでしょうか。 <委員了承> 次に農林業分科会。

(委員) 産直の代表者との話し合いの中では、安全安心な野菜が下山にはあるという観点からマップを作りたい。まだ原稿も何もできておらず、これから進めていくことになる。下山の安全な食品というのを頭においている。

(委員) 下山地区の各所で産直に物が集まって、活気が出て、それぞれの産直の共通の良い所を勉強しあって、高めていこうと。月に1回くらい産直同士が話し合って、1つの大きな所で合同で行うとか夢はある。

(委員) ビジョンとしては、連絡会ができたらいいいと思っている。今、各産直所、有人無人、規模

も様々、お互いの産直間の連絡ができていない。ただ阿蔵と下山の里は連携をとっているが、他はできていない。これからの話の進み具合でどんな組織にするのか、組織作りをしていきたい。

(事務局) 連絡会を作り、これからの生きがいつくりとして、下山の結束力として繋がっていくと良いと思う。地内に産直がいくつもあるが、目的目標が様々である。その違いを認め合えるような連絡会ができるといい。下山地内の産直を物流でつなぎ、欲しいところに流せば残ることもなく済むと思う。それと同時に別の物を作り出す仕掛けもできるといいと思う。高齢者など、作っている方の生きがいつくりを含めて物流など、地域の活性化につながるよう話を進めていく予定。よろしかったでしょうか。 <委員了承> 次にみりん分科会。

(委員) 今、空家空地の調査を区長会を通じて組長にお願いをしてある。斡旋したとしても個人で家を建てられるのは子どもがいるような若い世帯ではない。年寄りばかりが集まって、ますます高齢化が進んでしまうのかという心配がある。

(委員) 阿蔵地区の状態、花沢地区の状態など地域的な格差が大きいと思うので、それをまず連絡協議会を作って、自分の地区を何とかしたいという人達から、住んでいる人達から掘り起こしていかないといけないと難しい。

(会長) 希望する集落を対象とするのは良いことだが、その集落が自分の所に何件必要なのと言えないと難しい。そういう地域の理解が得られるのか。通えればいいが、職場がないと若い人は入ってこない。企業とのタイアップなど視野に入れていかないと、良い所だから住んでみようかとはならないと思う。

(委員) 団体ができないと、話し合いもできないし、市に要望などもできない。そのために、考えている地区の人達が集まって話ができるグループを作らないといけないと思っている。

(事務局) 住んでみりんは、これから地元に入って、危機感を植えつける部分を分科会だけではできず、地域会議として地域に入ることになる。分科会でつめて地域会議に諮って、継続して議論を進めていくことになる。市からではなく地元からという部分で協力をし、やっていくことになる。よろしかったでしょうか。 <委員了承> 三河湖周辺の整備事業の推進について、わくわく事業で周辺整備を地域でやっていただきながら、市の施策で行いたい部分を共働提案事業として行っていきたいと考えている。具体的には三河湖周辺の環境調査、自然環境計画の策定、伐採、遊歩道の整備など大規模な市で行う部分と、共栄会・地元で植栽など自分達で行える部分は継続して行っていただく内容になる。支所で整理をし、予算の枠内で提案したいと思っている。いかがでしょうか。

<委員賛成> 分科会ごとの方向性とわくわく事業からの提案、地域会議として了承を得られたので、分科会で検討していただき、事業案の作成を進めていただきたいと思います。今後、地域の合意形成の方法について、今日の内容を区長会とコミュニティ会議と合同会議で地域予算提案事業と分科会の検討事項を主に意見交換をしたいと思うが、いかがでしょうか。地域住民からの意見聴取ということで、組長会に入って前回同様に地域会議委員に意見を聞いてきていただく。合わせて支所だよりも載せ各戸配布し、意見を聞いていただけるようになると思う。 <委員賛成>

(会長) 以上で会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。